

接続詞 **and** は、順接関係にある 2 つ以上の要素をつなぐときに用いる。①は語と語、②は句と句、③は節と節というように、文法的に等しい要素をつないでいる。対等の語・句・節を 3 つ以上つなぐ場合にはコンマを用いて、〈A, B, (,) and C〉 という形で最後の要素の前にのみ **and** を置く。



**類例** I *went to the mall and saw a movie* with my friends.

昨日は友だちとショッピングセンターに行って、それから映画を観た。

**【!】** ①のように 2 つの要素が **单一の物や概念** を表すときは单数扱い。

Just salt and pepper **is** all you need to add.

あなたが加えるのは塩コショウだけです。

※ 2 つの要素を個別に意識する場合は複数扱い。

Salt and pepper **are** the most common spices used all around the world. 塩とコショウは世界中で用いられる最も一般的な香辛料だ。

This bed-and-breakfast **is** perfect for budget travelers.

このベッドアンドブレックファストは格安旅行客にはうってつけです。

(bed and breakfast は朝食付きの家庭的な宿泊施設。B&B と略される)

**【!】** 《ただけた話》で〈動詞<sub>1</sub> + **and** + 動詞<sub>2</sub>〉 という形が命令文で使われることがある。〈動詞 + to 不定詞〉 とほぼ同義である。

*Come and dine with us.* ⇔ *Come to dine with us.* うちに食事をしにきてよ。

*Stop by and see me at the office.* ⇔ *Stop by to see me at the office.* うちの事務所に立ち寄って、顔を見せにきてよ。

**コーサス** 動詞<sub>1</sub> は **come**, **go**, **hurry up**, **learn**, **run**, **stop**, **try**, **wait**, **write** など。(米・ただけた話》では、これらの動詞の後で **and** が省略されることもある。

**Come see** me at my house Friday night. 金曜の夜にうちに遊びにきてよ。



## 2 but

④ He is *rich but frugal*. [語+語] 彼は金持ちだが、儉約家だ。 958

⑤ *Tom is interested in physics, but I'm not.* [節+節] 959

トムは物理に興味があるが、私は関心がない。

接続詞 but は逆接関係にある語句や節をつなぐときに用いる。④は語と語、⑤は節と節をつなぐ例となる。A but B では、B の内容に重点が置かれる。

類例 *That movie was interesting, but it was too long.*

あの映画は面白かったが、長すぎた。

*He said he would come back by seven, but he didn't.*

彼は7時までに戻ると言ったが、帰らなかった。

## 発信のヒント

## but を伴う定型表現



いずれも〈譲歩〉→〈主張〉の構造になっており、but 以下の内容に重点が置かれる。

● **It is true (that) A, but B** (たしかに) A は本当だが、B である)

**It is true (that) Paul is over seventy, but he looks young for his age.**

ポールが 70 過ぎなのは事実だが、歳の割には若く見える。

● **may A, but B** (A かもしれないが B である)

**I may be young, but I'm not ignorant.** 私は若造かもしれないが、無知ではない。

● **of course A, but B** (もちろん A だが B である)

**You are right of course, but some people may think you are arrogant.**

もちろん君は正しいけど、君のことを傲慢だと思う人もいるかもしれない。

● **no doubt A, but B** (確かに A だが B である)

**No doubt Dr. Nakata is not good at English, but he is one of the best scholars in our university.** 確かに中田博士は英語は上手ではないかもしれないが、彼はうちの大学でも有数の学者だ。

● **to be sure A, but B** (確かに A だが B である)

**To be sure it is not a crime, but such behavior is surely improper.**

確かにそれは犯罪ではないが、そのようなふるまいは間違いなく不適切だ。

※ (and) yet を用いて「それでもなお」という逆接の意味を表すことができる。but よりも強意的。

**He tried very hard and yet he failed.**

彼は一生懸命やったけれどそれでも失敗した。

## 3 or

6 Would you like *rice or bread*? [語+語]

960

ライスにされますか、それともパンになさいますか。

7 Are you attending the ceremony *by yourself, or* (attending it) *with your family*? [句+句]

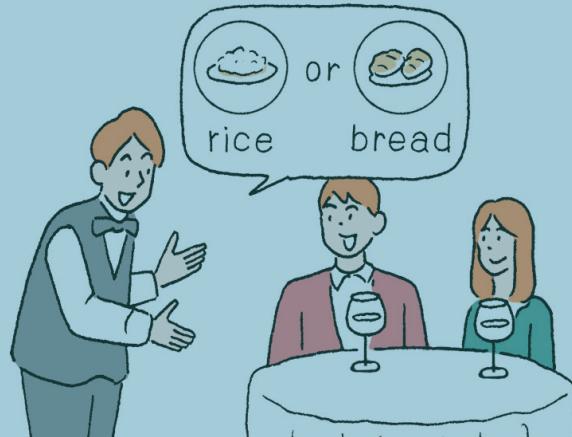
961

式典にはおひとりでご出席なさいますか、それともご家族とご出席されますか。

接続詞 **or** は「～か（それとも）…か」と選択の対象を並べるときに使う。6は語と語、7は句と句をつないでいる。

**類例** You need to show your student ID **or** a valid passport.

生徒証か有効期限内のパスポートか、どちらをお示しください。



**【!】** ある語句を他の語句に言いかえてわかりやすく説明するときに〈A, or B〉とすると、「A, すなわち B」という意味になる。

Dr. Uchida is a neurosurgeon, **or** a doctor who performs operations on the brain. 内田先生は脳外科医、つまり脳の手術を執刀する医師です。

**【!】** 〈not A or B〉の形で使われると「A でも B でもない」と両方を否定する意味になる。この意味の時には、not A and B ではなく、not A or Bとなることに注意。

We **don't** know when or where he will join us on our trip.

私たちの旅行に、いつ、どこで彼が合流してくるのか分からぬ。

この「A と B の両方否定」は、not を使わないで否定の意味を表す場合でも同様である。

**Nobody** knows when or where he will join us on our trip.

誰も彼が、いつ、どこで私たちの旅行に合流してくるのか分からぬ。

## 6 so

11 She had a headache, so she took medicine.

965

頭痛がしたので、彼女は薬を飲んだ。

出来事を述べた後で、そこから導かれる論理的結論や結果などを述べるとき、(話)では so (だから～、 …ので～) が使われる。(書)では so の直前にコンマを置くことが多い。  
※ and so の形で用いられることがある。この場合、so は副詞。

(かたく) では、(and) therefore となる。



### コミュニケーション 相手の意図を確認する so

so は疑問文とセットで用いたりして、「ということは…なんですね」という  
ように相手の意図を確認する場合に使われる。

**So** you mean I have to go? で、私が行かないといけないってことですか。



969

## 2 whether, if

15 **Whether** the team will win or lose is not certain. [主語]

チームの勝ち負けがどうなるかは予断を許さない。

16 The important thing is **whether** you can keep track of the money you spend. [補語] 大事なのは、君が遣ったお金をきちんと把握しておくことができるかどうかということだ。

970

17 I asked Tom **whether** [if] he would like to join our band. [目的語] 971  
私はトムに、うちのバンドに入りたいのかどうか尋ねてみた。

接続詞 whether と if は「…かどうか」という意味の名詞節を作る。

1) whether 節は主語 (15), 補語 (16), 動詞の目的語 (17) となる。

2) if 節は主に目的語 (17) として使われる。

【!】 **コーカス** whether 節, if 節を目的語とする動詞としては, **ask**, **doubt**, **know**, **see**, **wonder** などがある。また **be not sure**, **be not important** といった形容詞の否定の後にも置かれる。また, whether は **decide**, **determine**, **consider**, **discuss** といった〈決定や選択を求める動詞〉とは相性が良い。

【!】 以下の場合は, if ではなく whether を用いる。

a) 主語, 補語になる場合	c) 名詞の直後に置かれて同格節になる場合
b) 前置詞の目的語になる場合	d) ... or not が続く場合 (→ p.659)

接続詞 **when** は「…するとき」「…であるとき」という意味の副詞節を作る。when 節は 18 のように主節の後に置いててもよいし、文頭に置いててもよい。

接続詞 **while** は「…している間」「…である間」という意味の副詞節を作る。while は一定の時間の幅を表すので、節の中は 19 のように状態動詞、または動作動詞の進行形が継続の意味で使われることが多い。

**類例** I went shopping **while** you *were at school*.

私はあなたが学校にいる間に買い物に行きました。

Enjoy it **while** you *can*. 楽しめるうちに楽しんでおきなさい。

**While** you're at [about] *it*, can you take Bob with you?

そのついでにボブを連れて行ってくれない？



**【！】** when / while が導く副詞節で、節内の主語が主節の主語と一致しているときは、〈主語 + be 動詞〉を省略することができる。

**When (I was) young**, I used to stay up all night preparing for exams. 若い頃は、よく徹夜で試験勉強をしたものだ。

**While (he was) in office**, former President Obama was awarded the Nobel Peace Prize. 在任中、オバマ元大統領はノーベル平和賞を受賞した。  
while の場合は、次のコラムでの使い分けの際に注意が必要。



**注意しよう！ 前置詞 during と接続詞 while の使い分けに注意！**

a) 前置詞 during + 名詞（句）

b) 接続詞 while + SV ... (節)

「ロンドン滞在中に、彼は大英博物館を訪れた」と言う場合は、以下の 2通りが可能。

a) He went to the British Museum **during** his stay in London.

b) He went to the British Museum **while** (he was) staying in London.

b) の場合の〈主語 + be 動詞〉の省略に注意！ × during staying ... という間違いはよくあるので、注意しよう。

**発展 〈対比〉〈譲歩〉を表す while**

1) 接続詞 while は「～だが、一方…」という〈対比〉の意味の副詞節を作る。

Some people prefer coffee, **while** others like tea.

コーヒーを好む人もいれば、紅茶が好きな人もいる。

2) While 節が文頭に使われると、《かたく》で「…だけれども」という〈譲歩〉を表すこともある。

**While** I admit what you are saying, I still don't trust you.

君の言っていることは認めるけれども、それでも君を信頼できない。

類例 Finish your homework **before** you go [×will go out] *out to play*.

外に遊びに行く前に、宿題を終わらせておきなさい。

※ before/after 節は、時を表す副詞節なので、未来のことであっても will は使えない

※ before / after は前置詞として用いることもできる。

He started a new business **before** he graduated from college.

彼は大学卒業前に新事業を始めた。

≒ He started a new business **before** graduating from college.

### 注意しよう！ 否定表現の日英の違いに注意！



日本語では「…しないうちに」と言うが、英語では

「…する前に」と否定を用いずに表すことに注意。

風邪をひかないうちに（≒風邪をひく前に）中に入りなさい。

○ Go back inside **before** you catch a cold.

✗ Go back inside before you don't catch a cold.

【!】 It won't be long [a long time] before SV (…するまでには長い時間がかかるないだろう→すぐに「まもなく」…するだろう) という、before を使った慣用表現もある。〔V は現在形〕

**It won't be long [a long time] before** Tom comes back to Japan.

まもなくトムは日本に帰ってくるだろう。

※時を表す副詞節なので、未来のことであっても will は使えない (→ p.82)。

【!】 just, right, shortly などや「1 分前 [後]」といったように具体的な差を表す場合は、接続詞 before / after の直前に語句を置く。

The bus left the stop *one minute [just] after* we got on.

バスは私たちが乗って 1 分後に「乗ったすぐ後に」バス停を出た。

【!】 過去のことを述べる時に、接続詞 before / after を使えば時間の前後関係が明らかになるので、過去完了で大過去を表す代わりに、過去形を使ってもよい (→ p.101 「ここが Point!」)。

● **since** (…して以来) (22)

主節の動作や状態が始まる時点（起点）を示す。主節には継続を表す完了形、since 節には過去形を使うことが多い（→ pp.93-94）。

**類例** We have been friends **since** we were kids.

私たちは子供の頃からの友だちだ。

**【！】** 22のように、主節が現在（完了）形のとき since 節中の動詞は通例過去形だが、その状態が現在も継続している場合は現在完了形を用いる。

Nothing has changed **since** I've been here.

私がここに来てから（今までに）何も変わっていない。

● **by the time** ... (…するまでには)

by the time はワンセットで接続詞として用いられ,  
「…するまでには」という、ある期限までの動作の完了を表す。

**類例** Everybody was asleep **by the time** *I came back from work.*

私が仕事から帰った頃までには、みんなはもう寝ていた。

※ by the time は時を表す副詞節となるので、未来の内容には現在形を、未来完了の内容には現在完了形を用いる

**By the time** they get here, our meeting will be over.

彼らがここへ着くまでには、会議は終わっているだろう。

**because, since, as** は、原因・理由を述べる時に用いられる。as は後述する通り、理由以外にも様々な意味・用法を持つので、理由であることを明確にするならば、because や since を用いる。because 節は、相手が知らない理由〈新情報〉を述べる時に使うのに対して、since や as は、相手が知っている（だろうと話し手が思っている）理由〈旧情報〉を述べる時に使う。since も as も（ややかたく）響くので、会話では結果を表す so などを使うことが多い。

### 原理

because はもともと by cause からできたもので、強い因果関係を示す。だから主節の後に置いて、話し手が伝えたい内容や聞き手が知りたい理由〈新情報〉を述べる場合に多く使われる。一方、since は、「(ご承知のように)…なので」のようにあくまで聞き手がすでに知っていること〈旧情報〉を〈起点〉として述べるので、主節より前に置くのが通例。

#### ● now that ... (今や…なので) (34)

「今や…なので」と現在の状況を理由として述べる場合に使われる。(話)では that は省略されることも多い。



**Now (that) you're in town, why don't you come see us sometime?**  
あなたも我が町におられることだし、一度うちに会いに来ませんか。

**類例 Since** *it's likely to rain tomorrow, we'd better put off the picnic till the next weekend.*

明日は雨になりそうなので、ピクニックは来週末に延期した方がよいでしょう。

**As** *it was already dark, we decided to go back home.*  
もう暗くなっていたので、私たちは家に帰ることにした。

**Since** *we didn't have enough money, we couldn't buy a new car.*  
お金が足りなかつたので、私たちは新車を買えなかつた。

**【!】seeing (that) ...** (…が事実であることを考えると、…だから)

**Seeing (that)** *you are in trouble, I've come here to help.*  
君が困ってるから助けに来たよ。



## 英語の原理 since / as は使えず, because が使われる場合

1) because 節とは異なり, since 節と as 節は, It is ~ that ... の強調構文の～の部分には置けない。

**原理** 因果関係を強く表さないからである。

**It was because** [×since, ×as] *he (had) studied so hard that he was accepted to Harvard University.*

彼がハーバード大学に合格したのは, とても一所懸命勉強したからだ。

2) since 節と as 節は, Why ...? に対する答えとして用いることはできない。

**原理** since や as は, 相手が知っているだろうと話し手が思っている〈旧情報〉を述べる時に使うのだが, Why ...? と相手が尋ねている場合は, 相手が知らない〈新情報〉を because で提示すべきだからだ。また, Why ...? に対する返答になるときには, 主節を省略して Because 節単独で 1 文になる。省略された主節は, Why ...? の疑問文から容易に分かるからである。逆に言えば, 通常の **because** 節は従属節なので, 単独では 1 文として成立しない。

“**Why** did you miss the class?” “**Because** [×Since, ×As] *I had to go see a doctor.*”

「なぜ授業に欠席したのですか」「医者に行かなければならなかったのです」

3) **コーパス** because は前に in part, just, largely, mainly, not, only, partly, simply などの副詞を置くことができる。

**He bought the car only because** *he liked its color.*

彼はただ色が気に入ったという理由で, その車を購入した。

**【!】** 《ややかたく》〈due to the fact (that) ...〉で原因や理由を表す場合もある。

**The flight was canceled due to the fact that** *there was a problem with the aircraft.* 機体に問題があったという事実によって, その便は欠航となった。



## 発展 not ~ (just) because ...

not ~ (just) because ... は通常「…だからと言って～というわけではない」という意味に解釈される。

**You must not blame him too much because** *he failed.*

失敗したらかといって彼をあまり責めてはいけないよ。

しかし次のような場合ははどうだろう。

**She didn't marry him because** *he was the eldest son.*

これは否定語 not の作用する範囲をどうとるかによって、2通りに解釈が分かれる。

She did **[n't]** marry him **because** he was the eldest son.

(1) 「彼が長男だったからという理由で彼と結婚したわけではなかった(他の理由があった)」

She did **[n't]** marry him **because** he was the eldest son.



(2) 「彼女が彼と結婚しなかったのは彼が長男だったからだ」

こうした解釈のあいまいさを避けるためには、Just because SV ... を先に置いたり、because の手前にコンマを置いたりして、解釈をひとつに限定できるようにするとよい。

**Just because** you are busy, you should **not** skip breakfast.

忙しいからと言って、朝食を抜くのはよくない。

You are **not** allowed to drink, **because** you are under age.

飲酒が許されていないのは、未成年だからだ。

## 3 程度・結果を表す接続詞: so ~ that ..., such ~ that ...



989

35 It was **so** cold **that** I turned on the electric heater.

非常に寒かったので、電気ストーブを点けた。〈結果〉

36 It was **such** a fine day **that** we went hiking on Mt. Takao.

990

とても天気がいい日だったので、私たちは高尾山にハイキングに行った。〈結果〉

〈so + 形容詞[副詞] + that ...〉, 〈such + (a [an] +) 形容詞 + 名詞 + that ...〉の形で、因果関係を表して相関的に用いる。前から語順通りに訳せば「とても～（なー）なので…」〈結果〉となり、後ろから訳しあげると、「…するくらい～だ」〈程度〉と訳せる。〔くだけて〕では that は省略されることがある。なお、上の例は、〈程度〉を表す場合は以下のように解釈される。



35 電気ストーブを点けるほどに寒かった。〈程度〉

36 高尾山にハイキングに行ってしまうほどいい天気だった。〈程度〉

※ love, like, enjoy, despise など情緒的な反応を示す動詞と一緒に用いられることがある

I **so enjoyed** the novel **that** I read it three times.

その小説がずいぶん気に入ったので3回も読んだ。

※段階的な名詞句が来ている場合には、必ずしも形容詞はなくてもよい。

I was **such a fool that** I could not see through her obvious lies.

私はあまりに愚かだったので、彼女の見え透いた嘘を見抜けなかった。

36を以下のように書きかえることができる。その際、語順は〈so + 形容詞 + a [an] + 名詞 + that ...〉となる（冠詞の位置に注意）。ただし、〔かたい〕表現。

36' ≒ It was **so fine a day (that)** we went hiking on Mt. Takao.

※ so を文頭に置いて、後ろが倒置されることがあるが、《かたい》表現である。

**So bad was the weather that** the ship could not depart.

天候がとても悪く、船が出航できなかった。

【!】 《かたく》では such の直後に名詞句が来ない場合もある。

The noise was **such that** we had to close the window.

≒ (文) **Such was the noise that** we had to close the window.

〈結果〉 騒音がとてもひどくて、窓を閉めなければならなかった。

〈程度〉 騒音は窓を閉めなければならないほどひどいものだった。

#### 4 目的を表す接続詞 : so (in order) that ~ can ...



37 We exchanged our e-mail addresses **so that** we could contact each other. 私たちは連絡が取り合えるように、メールアドレスを交換した。 991

38 We exchanged our e-mail addresses **in order that** we could contact each other. 私たちは連絡が取り合えるように、メールアドレスを交換した。 992

● **so that ~ can ...** (～が…する (できる) ように、～が…するために) (37)

so that 節の中では、助動詞 can, (話) will, (かたく) may (それぞれ過去時制の時は could, would, might) などを使う (時に直説法現在が使われることもある)。

類例 I woke up at four **so that** I could catch the first train.

始発列車に間に合うよう、私は 4 時に起きた。

I studied hard **so that** I wouldn't fail in math.

数学で落第しないよう、私は一所懸命勉強した。



【!】 「～が…できるように」という〈目的〉を表す〈so + that〉の前には通例コンマを置かない。一方で、〈結果〉を表して「その結果…する」となる時は、コンマが置かれる。

**類例** He had to see the dentist **although** *he didn't want to.*

彼は歯医者に行きたくなかったのだが、行かなければならなかった。

**Even though** *she is only sixteen, she has to work to support her family.* 彼女はわずか 16 歳だが、家族を支えるために働くなければならない。

※ **despite [in spite of]** の前置詞句で書き換えられる場合がある。

He failed the exam, **though** he made a great effort.

彼はよくがんばったが、試験に落第した。

≒ He failed the exam **despite [in spite of]** his great effort.

**43**の **even if** は、「たとえ…だとしても」という〈譲歩〉を表す。if 節の内容は、**42**とは異なって、**事実かどうかは分からぬ**仮定****である(よって、× Even though it rains, ... とはしない)。

**類例** I couldn't catch the train **even if** *I ran to the station.*

駅まで走っても、その列車には間に合わないだろう。

